

鬼北町学校適正規模・適正配置検討委員会（第2回）議事概要

日 時：令和8年8月24日（月） 18時30分から19時30分まで

場 所：鬼北町中央公民館 3階 大会議室

出席者：委員23名（2名欠席）、教育課長、教育課長補佐兼学校教育係長

1 今回の協議内容

第1回委員会での協議を踏まえ、各小中学校PTA、自治会、認定こども園・保育園の保護者会、各学校において取りまとめた意見の報告を行った。

2 各団体から示された主な意見

(1) 小中学校PTA

全体として、児童数の減少を踏まえ、統合を前向きに考える意見が多く示された。特に愛治小学校については、児童数が極めて少ないことから、学校行事や集団活動等に限界があるとして、早期の統合を希望する意見が多く出された。

一方、小規模校には、児童一人ひとりに目が行き届くなどのメリットもあるため、統合後もこうした良さを生かしてほしいとの意見があった。

アンケート結果を踏まえ、今後は統合の方向性や具体的な次の段階を示してほしいとの意見があった。

統合による教育面のメリットを認める一方、学校統合によって地域の衰退が進む可能性もあることから、地域活性化について具体的な対策を併せて検討してほしいとの意見があった。

(2) 自治会からの意見

児童数の減少を考えると、将来的には統合もやむを得ないとする意見が多く示された。

一方で、特に日吉地区などからは、統合に伴う通学距離・通学時間、スクールバス等の通学手段、保護者の送迎負担への強い懸念が示された。

また、学校が地域コミュニティの拠点となっていることから、学校統合による地域の人口流出、地域行事の減少、地域活力の低下を懸念する意見も出された。

さらに、統合する場合には、学校施設の活用や地域の伝統文化・郷土学習等をどのように継承するかについても検討が必要との意見があった。

(3) 保育園・認定こども園保護者会からの意見

学校再編・統合を必要とする意見が多数を占めた。

特に、子どもたちの教育環境、友人関係、集団活動の充実、安全な通学手段の確保を重視する意見が多かった。

一方で、統合そのものだけではなく、放課後児童クラブ等の居場所の確保や在校生への配慮、小規模校の良さの継承、統合後の施設整備など、統合後の具体的な環境についても十分検討してほしいとの意見があった。

また、今後の検討では、どのような学校を目指すのか、通学や放課後の環境をどうするのかなど、具体的な将来像を示してほしいとの要望があった。

(4) 学校からの主な意見

児童数の急速な減少により、学習活動や人間関係形成の機会の減少、教職員の負担増加、複式学級の解消、教頭の学級担任兼務の解消、学年複数学級による新たな教育実践の可能性などの観点から、統合による教育環境の充実を期待する意見があった。

一方で、地域学習の機会や地域への愛着、伝統文化の継承など、地域に根差した教育の良さが失われることへの懸念も示された。

学校としては、最終的に決定された方向性を尊重し、その環境の中で子どもたちにとってより良い教育を行っていくとの考えが示された。

3 今後の方向性

これまで各団体から寄せられた意見を踏まえ、次回の委員会までに事務局が具体的な案を作成し、その案を基に具体的な協議を進めることとした。